3　環境情報の収集･発信

センターでは、県民に環境意識の向上や環境保全活動を支援するため、環境学習情報のほか、試験研究情報、国際貢献情報など様々な情報をホームページで提供している。平成26年7月からは、フェイスブックを活用して、イベントや生態園の四季、センターの活動などの情報も発信している。

また、新聞による環境情報の発信や、センターの活動を広く知ってもらうためにニュースレターを発行している。

HPアドレス http://www.pref.saitama.lg.jp/cess/index.html 〔平成27年度アクセス件数141,246件 前年度比5.0%減〕

フェイスブックページアドレス　http://www.facebook.com/saitama.kankyokagaku

3．1　ホームページのコンテンツ

(1) グローバルナビゲーション

トップページ上段に、以下の4つの大分類を設け、サイト構成をわかりやすく整理。

ア　センターについて　総長あいさつ、組織図、沿革、全景（航空写真）、パンフレットなどを掲載。

イ　施設紹介　施設紹介、ご利用案内、展示館、生態園、環境情報プラザ、研修室などを掲載。

ウ　試験研究の取組　試験研究の取組、研究課題、研究評価の取組、国際貢献、研究員紹介などを掲載。

エ　環境学習･情報　イベントのお知らせ、彩の国環境大学、身近な環境観察局、出前講座などを掲載。

(2) お知らせ

特に注目して欲しい情報を掲載。

(3) 新着情報

最新の更新情報を掲載。

(4) 環境学習･イベント情報

最新のイベント情報、社会科見学の案内など環境学習に関する情報を掲載。

(5) 研究所トピックス

ニュースレター、センター講演会など研究所に関する情報を掲載。

(6) お役立ちPickUp

イベント情報、ココが知りたい埼玉の環境、今月の里川などアクセスの多い情報を掲載。

(7) リンク

刊行物、地図で見る埼玉の環境 Atlas Eco Saitama、埼玉県生物多様性データベースなど。

3．2　ニュースレターの発行

センターが行っている試験研究の内容や様々な講座、イベントなどの情報を県民の方々に広く情報提供するためのニュースレター（A4版･6ページ）を平成27年度は4回発行した。なお、ニュースレターは、センターのホームページからも閲覧及びダウンロードができる。

(1) 第27号（平成27年4月発行）

･研究･事業紹介　「埼玉県環境科学国際センター講演会」を開催しました
「日中韓でPM2.5の同時観測を行っています」

･ココが知りたい埼玉の環境（18）　埼玉県ではニホンジカの食害による生態系への影響は現れているの？

･環境学習･イベント情報

(2) 第28号（平成27年7月発行）

･研究･事業紹介　「新たな県の温暖化対策実行計画に盛り込まれた温暖化適応策」
「アルカリ天然素材を活用した低コストで環境負荷の少ない新規土壌汚染対策技術の開発」

･ココが知りたい埼玉の環境（19）　川が赤色やオレンジ色になっています。塗料が流れているのではないですか。心配です。

･環境学習･イベント情報

(3) 第29号（平成27年10月発行）

･研究･事業紹介　「埼玉県におけるPM2.5の実態－成分調査からわかってきたこと－」
「数学で探る廃棄物最終処分場の美しい世界」

･ココが知りたい埼玉の環境（20）　県内の一部の学校では放射能の除染作業が行われたと聞きますが、広い校庭の除染をどのように行ったのですか

･環境学習･イベント情報

(4) 第30号（平成28年1月発行）

･研究･事業紹介　「新規環境汚染物質？揮発性メチルシロキサンの環境汚染実態を探る」
「資源植物による収益型汚染土壌修復－山西省での取り組み」
「第5回日中水環境技術交流会 in 西安」

･ココが知りたい埼玉の環境（21）　川の水や大気中に含まれる微量な化学物質はどのようにして測るのですか

･環境学習･イベント情報

３．３　センター講演会

当センターでは、広く県民に活動内容及び研究成果を紹介することにより、県民のセンターに対する理解と環境問題への関心を深めることを目的として「平成27年度環境科学国際センター講演会」を平成28年1月21日にさいたま市民会館うらわ（さいたま市浦和区）で開催した。「どうなる？どうする？温暖化」をテーマとして、東北大学の明日香教授が基調講演を行うとともに、センター研究員による研究成果・事例の発表及び研究活動紹介のポスター展示と解説を行った。センター講演会の参加者は226名であった。

（1）基調講演

温暖化問題とエネルギー問題

－やさしさの問題から正義の問題へ－……東北大学　東北アジア研究センター　教授　明日香　壽川

現在、世界中で温暖化あるいは気候変動が加速していて、既に多くの人的・物的被害が発生している。現状のままでは、被害がさらに拡大することはほぼ確実である。しかしながら、その対策は十分には進んでいない。理由は大きく二つある。第一は無関心である。熱波で何千人死のうが、南太平洋の島が沈もうが、将来世代が困ろうと、多くの人は実際には気にしていない。第二は反対勢力である。温暖化対策は現在の化石燃料エネルギーに依存する社会システムの構造改革に直結し、既得権益を持つ人たちが立ちはだかるという現状がある。平成27年12月12日、2020年以降の気候変動対策の国際枠組みであるパリ協定が法的拘束力を持つ文書として採択された。たしかに歴史的な出来事である。しかし、手放しで喜ぶことには少々違和感を覚える。なぜならパリ協定にある産業革命以降の温度上昇を2℃あるいは1.5℃以内に抑制するという目標達成への道のりはまだまだ遠い。そのような意味でパリ協定は小さな1歩にすぎない。そうは言っても、パリ協定はビジネス、特に金融や投資の分野へのインパクトは非常に大きい。お金の流れは様々なリスクに敏感であり、大きなリスクの一つとして気候変動や化石燃料がビジネスの世界で完全に認識されたことの意義は極めて大きい。間違いなくパリ協定は、このような動きを一気に加速させるだろう。

（2）センターの研究成果・事例紹介

埼玉県の気候変動

－過去と将来の気候変動とその影響に対する適応策－ ……温暖化対策担当 主任　原　政之

近年の地球温暖化は、中緯度地域や低地などの中庸な気候の地域にも影響が拡がりつつあり、埼玉県も例外ではなくなってきている。そこで、現在までの気候の変化、気候の将来予測、気候変動に対する緩和策や適応策などの研究について紹介した。

浄化槽分野における温暖化対策

－消費エネルギー削減と温室効果ガス発生抑制の両立－ ……水環境担当　主任研究員　木持　謙

私たちが生きていく上で、汚水と廃棄物の発生は避けられない。そこで、生活排水処理における温暖化対策の必要性、浄化槽の電力消費量削減実験などを検討した研究について紹介した。

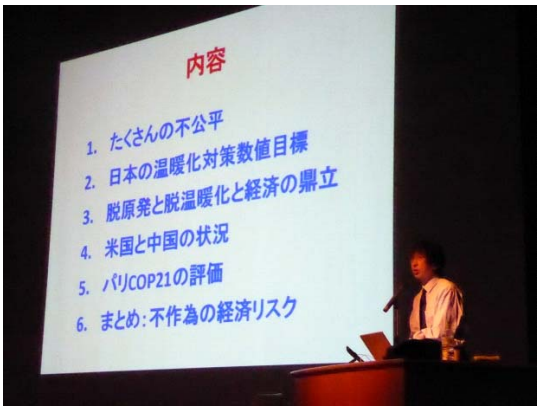
埼玉県における地下温暖化

－新たな環境変化と未利用エネルギーとしての活用－……土壌・地下水・地盤担当　専門研究員　濱元　栄起

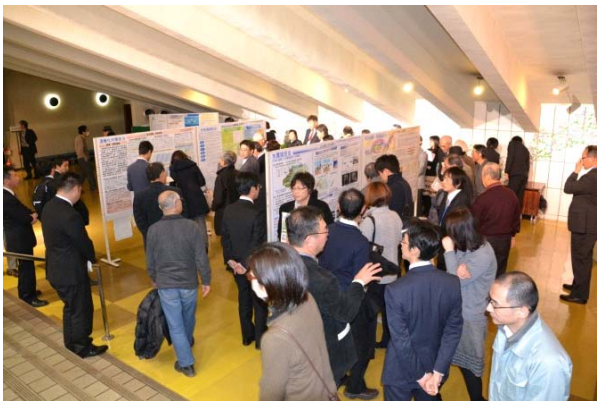
地球温暖化により平均気温が上昇しているが、気温だけでなく地下も温暖化していることがわかってきている。そこで、地下温暖化の把握、未利用エネルギーとしての活用の研究について紹介した。

（3）センターの活動紹介

各担当がその活動概要を紹介するポスターを展示し、参加者に説明するとともに、質問に答えた。



基調講演



ポスター展示

3．4　環境情報の提供

(1) モニタリングデータの提供 (CO_2)

環境科学国際センターは、さいたま市（1991～2000年度）、堂平山（1992年度～）及び当センター（2000年度～）において、地球温暖化原因物質である大気中のCO_2の濃度を観測してきた。測定に当たっては、世界気象機関標準ガスを基準としており、観測データについては、温室効果ガス世界資料センター（WDCGG）へ提供することにより、国連世界気象観測機構（WMO）の観測網を通して世界各地に供給した。平成21年10月からは、当センターの観測結果（速報値）をセンターホームページに掲載（自動更新）し、公開している。

(2) 環境情報の海外への発信

ホームページに英語版、中国語版のパンフレットを掲載するとともに、英語版ホームページにより研究成果や研究員紹介などを掲載し、海外に向けた情報発信を行った。

3．5　マスコミ報道

センターの試験研究、環境学習等に関して記者発表を行ったほか、取材を受ける等の結果、以下のとおりマスコミによる報道があった。

(1) 新聞報道、広報誌掲載　（17回）

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内　　容
4月17日（金）	埼玉新聞	今年もアユが来る	今年もアユが東京湾から荒川や江戸川を遡上するころだ。元荒川のアユは道中無事ならば熊谷まで行くことが県環境科学国際センター金澤光の調査で分かっている。綾瀬川では昨年秋、仔魚が八潮市の大袋ビオトープで見つかった。金澤らは上流域で産卵場を探す。金澤によると荒川に繋がる芝川、笹目川でもアユは遡上する。
6月14日（日）	埼玉新聞	水面に踊る優雅な銀光 綾瀬川に稚アユ 岩槻	さいたま市岩槻区の綾瀬川でNPOエコロジー夢企画と県環境科学国際センターの金澤光らが四手網などで調査を行った結果、稚アユを捕獲した。金澤によればスズキはアユの稚魚を東京湾から追ってきているとみられる。綾瀬川がアユが上る川になっていることが確認できた。金澤らは綾瀬川での成長や産卵の実態を調べる。
7月 5日（日）	毎日新聞	巡礼者の目を楽しませ 秩父	秩父市久那の秩父礼所25番・久昌寺（通称・御手判寺）境内の岩場で、絶滅危惧種に指定されているミヤマスカシユリがオレンジ色の花を咲かせ、訪れる巡礼者の目を楽しませている。絶滅が心配されることから、地元の「弁天会」が、数年前から県環境科学国際センター（加須市）が取り組む育成試験に協力して保護しているものである。
8月15日（土）	読売新聞（夕刊）	ふしぎ科学館　人や農作物に害を与える野生動物を追え！	ニホンジカによる森林植生に対する影響やツキノワグマの個体数及び生息分布の調査方法について自然環境担当・角田研究員による解説が紹介された。また、ニホンジカの食害によって衰退した森林の写真を提供した。
9月26日（土）	下野新聞	環境問題　楽しく学ぶ	栃木県南近隣の気軽に往来できる施設の一つとして、環境科学国際センターの展示館や触れる地球、生態園が紹介された。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内　　容
10月17日 （土）	埼玉新聞	カニやボラに興味津々 綾瀬川で児童ら観察会 八潮	魚の観察会が八潮市大曽根の綾瀬川ビオトープで開かれた。会場では県環境科学国際センター自然環境担当主任専門員の金澤光が解説。オオクチバスなどの外来種を説明した。今回はアユの仔魚は確認できなかったが、金澤らは今月末に上流のさいたま市内でアユの産卵場を調査する。
10月31日 （土）	埼玉新聞	綾瀬川にアユの仔魚 生息調査で確認 産卵場所は見つからず	綾瀬川で市民によるアユの生息調査が行われた。岩槻区と上尾市の2カ所で仔魚2尾を捕獲した。県環境科学国際センター金澤光の指導でNPOエコロジー夢企画メンバーらが調査した。調査結果から金澤は綾瀬川にアユが遡上し、成長することは確認できた。綾瀬川がアユがすめる川になったと言うにはまだ早い。アユの発見は川を綺麗にしてほしいという海からの信号と考えるべきだとコメント。
11月 6日 （金）	産経新聞	ムサシトミヨ大量死 熊谷市保護センター 絶滅危惧種の県魚	熊谷市ムサシトミヨ保護センターの繁殖池で県の魚ムサシトミヨが大量に死んでいた。水をくみ上げる管や水質に異常はなく、今後は環境科学国際センターで薬物検査を行う。
1月 1日 （金）	電気と保安1・2月号	好奇心いっぱい！ 小トラベル第130回 「埼玉県環境科学国際セ ンター」	環境について、楽しみながら学べる施設として、展示館や生態園、触れる地球などを紹介。
1月10日 （日）	埼玉新聞	温暖化テーマ 21日に講演会 浦和区	県環境科学国際センターは21日、さいたま市浦和区で「どうなる？どうする？温暖化」をテーマにした講演会を開催する。センターの研究員による研究成果発表会もある。
1月19日 （火）	埼玉新聞	絶滅危惧種の魚 スナヤツメ発見 不思議な生態「人と共存を」	ときがわ町玉川の都幾川の農業用堰の魚道工事現場で国と県の絶滅危惧種に指定しているスナヤツメが見つかった。地元住民も「初めて見た」という珍魚。県内河川で30年以上にわたり、スナヤツメの調査を続ける県環境科学国際センター主任専門員の金澤光は「人目に触れない魚。不思議な生態にも魅せられた。これからもずっと人間と共存してほしい」とコメント。
1月25日 （月）	産経新聞	絶滅危惧種スナヤツメ発見 ときがわで魚道工事中に	ときがわ町玉川の宮ケ谷戸前堰で、魚の生息調査を兼ねた魚道工事中に、国と県の絶滅危惧種に指定されているスナヤツメを見つけていたことが県環境科学国際センターへの取材で分かった。スナヤツメなどの調査を30年以上続けている同センター主任専門員の金澤光は「貴重な生物がいることを地元の人に知ってもらい、環境保全に興味を持ってほしい」とコメント。
2月 3日 （水）	埼玉新聞	江川に魚200匹浮かぶ 水質検査で農薬検出	県環境科学国際センターで魚が斃死した江川の水質検査をしたところ、販売・使用が禁止されている農薬「エンドスルファン」が検出された。
2月 3日 （水）	朝日新聞	桶川で魚が大量死	県環境科学国際センターで魚が斃死した江川(桶川市)の水質検査をしたところ、販売・使用が禁止されている農薬「エンドスルファン」が検出された。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内　　容
2月18日（水）	読売新聞	「ムサシトミヨ」27日に繁殖報告会	全国で熊谷市内の元荒川にしか生息していない魚「ムサシトミヨ」の繁殖報告会が27日、市立商工会館で開かれる。主催は熊谷市ムサシトミヨをまもる会。当日は、県環境科学国際センターの金澤光が「ムサシトミヨ生息地下流の魚類相について」と題して報告。続いて同市立熊谷東中、久下小、佐谷田小の生徒・児童が繁殖活動を発表する。
3月11日（金）	埼玉新聞	環境と水質改善に参加者らと意見交換 嵐山でシンポ	荒川流域の環境や水質の現状について意見交換する「第20回荒川流域再生シンポジウム」（NPO法人荒川流域ネットワーク主催）が、13日嵐山町で開かれる。国交省荒川上流河川事務所職員や県環境科学国際センター自然環境担当主任専門員の金澤光研究員なども荒川流域の環境に関する現状を報告。
3月19日（土）	埼玉新聞	ムクドリ4羽死ぬ　川越	川越市内でムクドリが計4羽死んでいるのが見つかった。環境科学国際センターで薬物検査を実施したところ、4羽全てから有機リン系殺虫剤「イソキサチオン」が検出された。

(2) テレビ放映、ラジオ放送　(3回)

放送日	局名	番組名（タイトル）	内　　容
6月 2日（火）	FM NACK5	モーニングスクエア	6月21日に開催される県民実験教室「廃油からリサイクル石けんを作ってみよう」参加者募集のお知らせ。
7月16日（木）	FM NACK5	モーニングスクエア	8月23日から開講する「彩の国環境大学」受講生募集のお知らせ。
8月 3日（月）	FM NACK5	モーニングスクエア	夏休みの特別企画の一環として8月5日に開催するサイエンスショーや研究所公開などのお知らせ。

(3) ミニコミ誌等　(5回)

放送日	掲載誌	タイトル	内　　容
5月15日（金）	まいなび	県民実験教室「廃油からリサイクル石けんを作ってみよう」	6月21日に開催されるイベントについて、開催日時、申込方法などを紹介。
7月 1日（水）	関塾タイムス7月号	わくわく全国学び体験ガイド「埼玉県環境科学国際センター」	環境について、楽しみながら学べる施設として、展示館や生態園などを紹介。
7月17日（金）	ぱど	当日の申込みで参加しよう！　夏休み特別イベントを開催	夏休み特別企画のうち、当日申込みで参加できるサイエンスショーと研究所公開について、開催日時や参加方法などを紹介。
10月 1日（木）	環境ニュース10月号	デジタル地球儀「触れる地球」が環境科学国際センターに登場	7月11日から展示を開始したデジタル地球儀「触れる地球」について紹介。
12月21日（月）	とねじん1月号	手作り工作「オリジナルしおりを作ろう」	1月10日・11日に開催されるイベントについて、開催日時、参加方法などを紹介。